

加賀東谷地区のまちづくり活動 －交流人口の増加を目指して－

学生団体名：金沢工業大学 谷研究室

参加学生：出井隆一郎・大和田静・中川雄太・岩城和也・藤井亜紀子

1. 地域活動の概要

私たち谷研究室は活動を行う上で荒谷地区、今立地区、大土地区、杉水地区の4地区で形成される石川県加賀市山中温泉東谷地区での地域活性化を目指し、住民が自立的な活動を行うことのできる場の形成を最終的な目標としている。また、当地区では平成19年～20年の2年間に重要伝統的建造物群保存地区（以下、重伝建地区）選定に向けた調査が行われた。その際に、東谷地区の課題の1つとして「過疎化」が問題視された。そのため、昨年より重伝建地区選定を視野に入れ、4年計画でまちづくりを行っている。

2. 地域活動の具体的な内容

東谷地区でまちづくり活動を行うにあたり、重伝建地区選定を視野に入れた活動として以下の4つの活動を中心に行った。

■カフェ内部空間の整備計画

東谷地区のまちづくり活動の拠点である「山野草かふえ」は昨年、現在の場所に移転した建物である。内装などが完全に移転されておらず、カフェ内の照明などが一般家庭にあるような蛍光灯のままであった。そのため、カフェ内の照明を現在よりも良い雰囲気が出るように和風の照明に変更した。

また、アンケート調査を行ったところ、照明が店の雰囲気に合っていないという意見があり、改善する必要があると考えた。

◇照明の改善

カフェの照明を変更する際、適正網照明計画を行うために所有している照明器具をパターンごとに組み合わせて照度を計測した。

計8パターンで照度を測定し、この結果を元に照明器具を設置した。

また、照明の主電源が部屋から離れた位置にあったため、カフェで働く人たちが利用しやすいようにリモコンスイッチを取り付けた。



図1 カフェ内部の様子

■カフェ外部空間の整備計画

カフェの外部空間の整備として、カフェの裏空間に山野草を利用したガーデンを提案した。

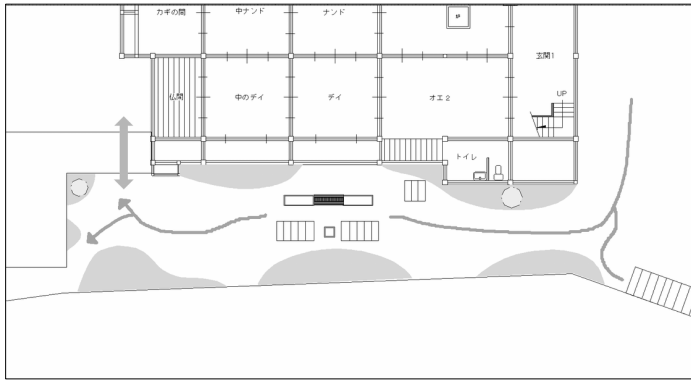


図2 計画図面



図3 調査の様子

◇植生調査

ガーデンを計画するにあたり、山野草に詳しい住民に協力していただき、裏庭に自生する植物を調査した。その結果、ササユリ・オニユリ・ヤマユリ・ドクダミ・ヨモギ・ワケギ・シダなど10種類以上の山野草が自生していることが分かった。

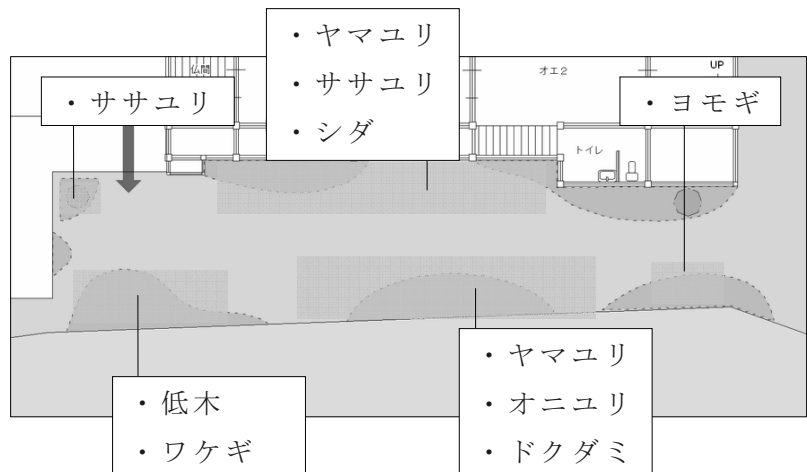


図4 植生調査結果

◇加賀市で採集した竹の利用

橋立地区にある伝統家屋の周辺整備を行った際に、大量の竹を伐採した。そこで、ガーデンに設置する花壇を製作するにあたり、この時に採集した竹を利用した花壇を計画した。

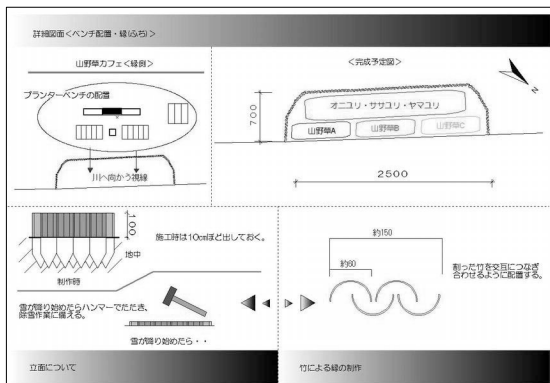


図5 竹を利用した花壇の提案



図6 加工の様子

■ 神人の滝の再整備

昨年度、谷研究室では東谷地区にある「神人の滝」の遊歩道の橋架け作業を行った。今年度、滝の調査を行った際、滝へ続く遊歩道の崩壊・倒木などによる危険や、溪流に枝等のゴミが溜まることによる景観の悪化が見受けられた。そこで、今年度は調査した際に挙げられたこれらの問題を解決するための再整備を行った。

作業には加賀市役所や地域住民が参加した。住民の方に指導してもらいながら協働で作業を進め、納得のいくものを作り上げることができた。



図 7 整備中の様子



図 8 整備後の様子

■ 地域に向けた展示活動

加賀市主催の「加賀ひがしたに展」にて，東谷地区の紹介や谷研究室と東谷地区との関わりなどを紹介したパネルを作成し，地域に向けた展示活動を行った。

また，展示を行う際には東谷地区の地域住民も参加し，住民と協同で展示活動を行うことが出来た。こういった活動は地域を知ってもらえる良い機会になり，情報発信の場として活用できるので，今後機会があれば積極的に参加していきたい。

- ～設置場所と期間～
- ・ 7/1～7/8 <石川県庁 19階展望ロビー>
 - ・ 7/26～8/6 <加賀市役所本庁舎正面ロビー>
 - ・ 8/9～8/24 <加賀多目的ロビー>



図 9 パネルの展示



図 10 作成した紹介パネル

3. 今回の地域活動の評価

■ 神人の滝整備

神人の滝の整備は、整備の計画案は事前に考えていたが実際現場に行くと、初めての経験でどのように行えば良いのか分からず、戸惑ってしまった。しかし、普段から土や木を扱う作業に慣れている住民の方の協力に助言を受けながら作業をやり遂げることができた。

■ 山野草カフェの整備計画

カフェ内部空間の照明の変更に関しては、照明を変更した後にアンケートを取ったところ、15名中10名の方から「大変良い」という評価を受け、それに伴って「カフェ全体の雰囲気良くなった」という意見もあった。

カフェの照明については全体的に良い評価が多かったが、まだ「設置数が少ない」「雰囲気の更なる向上」など改善の余地があると考えられるので、継続的なアンケート調査等を今後も行っていきたい。

■ 情報発信

東谷地区は今まであまり情報発信を行ってこなかった。そのため、県庁や市役所などの地域住民が多く利用する施設で紹介パネルを展示できたことは、非常に効果的だった。

■ あいおす祭り、野菜市、開墾ツアーへの参加

上記の活動以外に住民が主体で行う4地区合同の祭りや、毎月行われる野菜市、農業を体験できる開墾ツアーなどに参加した。こういった地域の活動に参加することで、地域住民と交流を図る大切さや地域を盛り上げようとするモチベーションを高めることができた。また、住民が力を合わせて地域を活性化させようという意識を確かめる良い経験になった。



図 11 開墾ツアーへの参加

4. 今後、この地域活動を継続、活性化していくために必要なもの、及び課題

東谷地区の今後の課題として、知名度の低さが挙げられる。県内でもまだ認知度の低い地域なので、今後より多くの人々にも知ってもらうためにも、ホームページを作成してインターネットを利用した情報発信・待ち歩きマップの製作する必要がある。

また、交流人口増加に向けて、核となる場所（山野草カフェ・神人の滝など）の整備が必要である。カフェ裏のガーデンの製作は積雪により計画が滞っているため、天候が回復次第、住民と協力して作業を進めていく。

5. その他

1年間を通して東谷地区で様々な活動を行ってきた。自分たちの研究活動以外に、あいおす祭りや開墾ツアーなど地域行事に参加し、住民と交流を深めることができた。また、これまでの研究活動や地域行事に参加することで住民から「若い人たちが来てくれると、こちらやる気が湧いてくる」、「一緒により良くしていこうという気になれる」といった言葉を頂いた。今後は、さらなる東谷地区の活性化・交流人口の増加を目指して努力していきたい。